

【小倉勤】

■ 『大村智－2億人を病魔から守った化学者』
馬場錬成著 / 中央公論新社

理系・文系問わず学生の生き方のヒントとなる一人の学者の評伝。一読の価値あり。

薬学部

【池田啓一】

■ 『狂ったサル』
アルバート・セント＝ジェルジ著、国弘正雄訳 / サイマル出版

科学は人類の健康と幸せのために使われるべきものである。

【石川和宏】

■ 『がん消滅の罫 完全寛解の謎』
岩木一麻著 / 宝島社

ミステリーでがん治療を理解する面白さに感動するでしょう。

■ 『勿忘草の咲く町で 安曇野診療記』
夏川草介著 / KADOKAWA

超高齢化医療に挑む若き医療者が日々抱える数々の苦闘に心から感動する物語です。

■ 『蝸ノ記』
葉室麟著 / 祥伝社

人思いの温かい心を培うために。

【井上裕子】

■ 『スマホ脳』
アンデッシュ・ハンセン著、久山葉子訳 / 新潮社

暇さえあればスマホをいじっている人は是非お読み下さい。

【大島京子】

■ 『生物と無生物のあいだ』
福岡伸一著 / 講談社現代新書

生物をとっていない人でも大丈夫。

【岡田守弘】

■ 『Think clearly』
ロルフ・ドベリ著、安原実津訳 / サンマーク出版

悩みを解決する思考法がここにあるかもしれません。

■ 『日本の戦後を知るための12人』

池上彰著 / 文藝春秋

令和の時代の日本を考える機会となります。

【鍛治聡】

■ 『週末アジアでちょっと幸せ』

下川裕治著 / 朝日文庫

是非、訪れたいです。ここがいいかな・・・と、コロナ禍を克服しての旅先探しにも面白いです。個人的には、表紙をめくった1枚目の写真がたまらない。

■ 『日本を創った12人』

堺屋太一著 / PHP文庫

選ばれた一人は首相なのですが、吉田茂首相でも田中角栄首相でもない。何でとの思いも読み進めると納得でき、残りの方々も納得です。

【要衛】

■ 『化学者たちの感動の瞬間：興奮に満ちた51の発見物語』

有機合成化学協会編 / 化学同人

「創造の瞬間」有機合成化学の極意を学ぶ。

【亀井敬】

■ 『ひらく、ひらく「バイオの世界」：14歳からの生物工学入門』

日本生物工学会編 / 化学同人

■ 『高校生からのバイオ科学の最前線』

生化学若い研究者の会編 / 日本評論社

2つの本とも少し古いのですが、(4~5年程前)、初学者や文系の方で、生命科学のビジネスなどの応用的なものにも興味を持っている方にとっても読み易く、また、現代人としての教養を身につけるためにも、あまり堅苦しくならず手に取れそうです。

【川田幸雄】

■ 『世界史を大きく動かした植物』

稲垣栄洋著 / PHP研究所

人と植物のつながりを知ってほしい。

■ 『人の暮らしを変えた植物の化学戦略』

黒柳正典著 / 築地書館

薬の原点を知ってほしい。

【木藤聡一】

■ 『大学で何を学ぶか』

加藤諦三著 / ベストセラーズ

「世間からの評価にとらわれず、自分の人生は自分で切り開いていこう」という希望を与えてくれる本です。

■ 『正しいコピーのすすめ～模倣、創造、著作権と私たち～』

宮武久佳著 / 岩波ジュニア新書

「コピー＝悪」なのか？「許されるコピー」と「許されないコピー」の違いは何なのか？コピー時代におけるコピーの意義を深く考えるための一冊。

【倉島由紀子】

■ 『ドキュメント遺伝子工学』

生田哲著 / PHPサイエンス・ワールド新書

一つの技術が爆発的に発展する様が記録されています。ドキドキしますよ。

【佐藤安訓】

■ 『チーズはどこへ消えた？』

スペンサー・ジョンソン著、門田美鈴訳 / 扶桑社

迷路に住む2人の小人と2匹のネズミの話で、30分程度で読める薄い本です。迷路＝人生、チーズ＝お金、名誉、安定など人生で自分が求めるもの。勉強、人間関係、就職等人生の様々なステージで役に立つ本です。

■ 『迷路の外には何がある？』

スペンサー・ジョンソン著、門田美鈴訳 / 扶桑社

「今後どう生きればよいか」と不安に感じたら読んでください。幸せになるためのお話です。世界で約3,000万部突破した『チーズはどこへ消えた？』の続編。

【佐藤友紀】

■ 『ノーベル賞の決闘』

ニコラス・ウェイド著、丸山工作訳 / 同時代ライブラリー

2人の科学者の壮絶な研究競争を描く物語。

【高橋達雄】

■ 『山本五十六』(「新潮日本文学51」収録)

阿川弘之著 / 新潮社

真珠湾攻撃を構想した人間の人物像とは。

【手塚康弘】

■ 『「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス』

戸田山和久著 / NHK出版

科学頭で生活も勉強も楽。

■ 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』
竹内薫著 / 光文社

あたまが柔らかくなる科学入門。

【畑友佳子】

■ 『カラフル』
森絵都著 / 文春文庫他

ファンタジーですが、案外、日常にある話なのかもしれません。いろいろな視点から物事を見ることは大切だと、改めて気づかされます。

■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』
■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー 2』
ブレイディみかこ著 / 新潮社

自分の頭で考え、自分の意見を持ち、行動できる、そんな大人になってほしいと思います。

【光本泰秀】

■ 『あなたを幸せにしたいんだ 山本太郎とれいわ新選組』
山本太郎著 / 集英社

この熱気と本気度、そして想像を絶する勉強量！中卒の彼を駆り立てたものを考えてみてください。貴方の生き方にヒントを与えてくれるかもしれません。

【村田慶史】

■ 『知的人生案内』
W・A・オールコット著、竹内均訳 / 三笠書房

人生を大切に生きる指針が記されています。

【山崎真津美】

■ 『塩狩峠』
三浦綾子著 / 新潮文庫

実話がベース。人間愛のパワーを感じました。

【劉園英】

■ 『空中ブランコ』
奥田英朗著 / 文藝春秋

とても面白くて、不思議な話！癒しと元気をくれる一冊です。

経済経営学部

【板倉栄一郎】

■ 『二十一世紀の若者論』

小谷敏著 / 世界思想社

日本の現代の若者(=大学生)が学術的にどのように位置付けられるのかを記した興味深い著書。

■ 『本当に日本人は流されやすいのか』

施光恒著 / 角川新書

日本人は主体性が乏しいという言説に対して、日本文化論や戦後の歴史学等、様々な知見を駆使して検証を試みた意欲的な著書。

■ 『「空気」を読んでも従わない』

鴻上尚史著 / 岩波ジュニア新書

「世間論」で得られた知見を拠り所に、「空気」や「雰囲気」、そして「同調圧力」に屈しない方法を筆者独自の切り口で記した挑戦的な著書。

【川端健司】

■ 『ありがとうの神様』

小林正観著 / ダイヤモンド社

様々な悩みを解決するためのヒントが具体的に示されています。

【越田剛史】

■ 『7つの習慣:成功には原則があった!』

スティーブン・R・コヴィー著、川西茂訳 / キング・ベアー出版

習慣が変わると、人生が変わる!

【五味一成】

■ 『人生心得帖』

松下幸之助著 / PHP文庫

簡単に読める書であるが、(悩み多き時期も含め)一人の社会人として自分の価値観を形成する上で、多くのヒントを授けてくれる。

■ 『SDGs入門』

村上芽、渡辺珠子著 / 日経文庫

最近よく聞くSDGsとは何だろう。国連サミットで採択された全世界的なアジェンダが金沢に生きている自分に関係していくのだろうか……。

■ 『ストーリーとしての競争戦略』

楠木健著 / 東洋経済新報社

講義で学ぶ理論の数々…時に不連続的な理解を総合的に捉えていくことの重要性を、興味を持たせながら教えてくれる良書。

■ 『戦艦武蔵』『陸奥爆沈』『高熱隧道』『海の史劇』『巖嵐』『破船』『破獄』『仮釈放』

吉村昭著 / 新潮文庫他

■ 『三陸海岸大津波』『関東大震災』『闇を裂く道』

吉村昭著 / 文春文庫他

題材は江戸時代から昭和期のものが多いが、綿密な取材、緻密な文章で構成された記録文学(ノンフィクション)の数々は読者の期待を裏切らない。感情を入れ込まずロマンに走らない冷徹な視点は、変わらない人間・社会の様々な現実を読者の脳裏に焼きつかせる。本物の記録文学に接してみよう。

■ 『壬生義士伝』上・下巻

浅田次郎著 / 文春文庫

大学生にはあまり読まれないであろう歴史小説だが、最後は涙なくしては読めない心打つ小説。自分の軸を持って生きることの素晴らしさを考えさせられるロマン溢れる小説。

【武村和正】

■ 『ブラック・スワン～不確実性とリスクの本質 上・下』

ナシーム・ニコラス・タレブ著、望月衛訳 / ダイヤモンド社

企業人に欠かせない「洞察力」を身につけることができる最良の書。メルカリ最高経営責任者・山田氏も愛読書に挙げています。

■ 『財政破綻の嘘を暴く:「統合政府バランスシート」で捉えよ』

高橋洋一著 / 平凡社

多くの経済・財政学者、マスコミが喧伝してきた財政破たん。彼らにとって「不都合な」財政の実態について、丁寧に解説。

【田尻慎太郎】

■ 『リサーチの技法』

ウェイン・C・ブース他著、川又政治訳 / ソシム

研究を志す、すべての人が最初に読むべき古典です。

■ 『平成の経済』

小峰隆夫著 / 日本経済新聞出版社

バブル崩壊後の失われた二十年を体系的に振り返った、日本経済新聞「2019エコノミストが選ぶ経済図書」ベスト1の本です。

【佃貴弘】

■ 『こども六法』

山崎聡一郎著 / 弘文堂

著者は、刑法などの法律の条文を子ども向けに翻案した冊子を自費出版していました。この本は、いじめ問題に焦点を当てて書籍化したものです。同著者の本として、『こども六法の使い方』というエッセイ、『こども六法練習帳』があります。

■ 『100万回死んだねこ: 覚え違いタイトル集』

福井県立図書館編著 / 講談社

思わず笑ってしまうような「うろ覚え」や「覚え違い」が載っています。特に171ページ以降の図書館の「レファレンスサービス」の部分を読めば、みなさんが図書館を使いこなせていないと感じると思います。図書館を使いこなせるようになるために、一読を薦めます。

【温井鋼哲】

■ 『孔子とドラッカー』

一条真也著 / 三五館

中国では孔子の論語再発見の真っ只中、日本ではドラッカーブーム。時代が求める二人の賢人を結びつけた本。

【藤本雄紀】

■ 『プログラムの絵本 プログラミングの基本がわかる9つの扉』

(株)アंक編 / 翔泳社

タイトルの通り、文章ではなく絵でわかりやすくプログラムの仕組みを説明した本です。今までパソコンに触れてこなかった人や、苦手意識がある人でも基礎から学べる一冊です。

■ 『文系AI人材になる』

野口竜司著 / 東洋経済新報社

AIの専門用語は必要最低限におさえつつ、AIをどのように活用すべきか、自分の仕事への応用を検討できる一冊です。本書に記載された活用事例を分析し、AIを使って自分の仕事をつくることのきっかけになります。

【松本和彦】

■ 『権利のための闘争』

イエーリング著 / 岩波文庫他

法・権利の目標は平和であり、そのための手段は闘争である。

【南谷直利】

■ 『北の海』上・下巻

井上靖著 / 新潮文庫

「潮とどろく日本海」がイメージされる『北の海』を読破すると、井上の柔道稽古に明け暮れた学生生活の日々が蘇る。

【森田聡】

■ 『7割は課長にさえなれません』

城繁幸著 / PHP新書

終身雇用＝安定は真っ赤なウソということがわかります。企業の実態を知ってください。

■ 『ブラック企業：日本を食いつぶす妖怪』

今野晴貴著 / 文藝春秋

違法な労働条件で若者を働かせ、人格が崩壊するまで使いつぶすブラック企業の現状を知り、就活に役立ててください。

■ 『搾取される若者たち』

阿部真大著 / 集英社新書

若者はなぜ搾取されてしまうのか、この本を通じて何かを感じてください。

国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科

【伊藤梢】

■ 『日本で学ぶ文化人類学』

宮岡真央子他編 / 昭和堂

日本をフィールドとした人類学に興味のある人へ。生まれ育った当たり前を見直すきっかけになります。

■ 『ヒップホップ・モンゴリア：韻がつむぐ人類学』

島村一平著 / 青土社

政治・経済・伝統・エスニックアイデンティティが絡み合うモンゴルのヒップホップシーン研究。

【川村拓也】

■ 『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か』

平田オリザ著 / 講談社現代新書

副題の問いについて一度深く考えてみてもらいたいです。新書ですので読みやすいかと思います。

■ 『英語とはどんな言語か：より深く英語を知るために』

安井稔著 / 開拓社

タイトルを読んで興味あるなと思った人は是非。私が大学で英語学を真面目に勉強しようと思ったきっかけの一冊でもあります。

【大東万里絵】

■ 『世界で働く人になる！』

田嶋麻衣子著 / アルク

世界を舞台に活躍したい人必見。日本人としての強みを生かし、様々な国籍の人と仕事するためのヒントが見つかります。

【田中康友】

- 『ウルカヌスの群像:ブッシュ政権とイラク戦争』
ジェームズ・マン著、渡辺昭夫監訳 / 共同通信社

ジャーナリストのジェームズ・マンが、ブッシュ政権の閣僚たちに焦点をあて、なぜアメリカがイラク戦争に突き進んでいったのかを明らかにする。

【榎森隆一】

- 『アメリカのデモクラシー 第一巻(上)』
トクヴィル著、松本礼二訳 / 岩波書店

19世前半、フランスの思想家トクヴィルが当時のアメリカを旅して著した。現代の私たちが暮らす民主主義の原点を知ることができる。

【村田和弘】

- 『中国小説集』
中島敦著 / 講談社文庫

近代日本人の承認されない自我の悩みを、虎に変身した男が語り、沙悟浄が追及する小説集。

- 『中国語はじめの一步』
木村英樹著 / 筑摩書房

読み手の言語センスが問われる一冊。

【吉田明代】

- 『神話の力』
ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤーズ著、飛田茂雄訳 / 早川書房

「神話」というものを通して、人生や世界のことを深く考えるきっかけになる一冊。対談なので読みやすいです。

- 『多田富雄のコスモロジー 科学と詩学の統合をめざして』
多田富雄著 / 藤原書店

生命と自己同一性の驚異にくらぐらわくわくし、科学と哲学と詩学と美学がぜんぶつながって、世界を見る目が一新される。

国際コミュニケーション学部心理社会学科

【小島弥生】

- 『ソーシャルメディア論 改訂版』
藤代裕之著 / 青弓社

今の若い人たちが使っているSNSに関する、社会学や情報学の先生方がまとめている書籍で、アプリの話も含まれている。

■ 『なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理』
永房典之著 / 金子書房

自信の持てない若い方に読んでほしい。

医療保健学部

【佐藤妃映】

■ 『二十歳の原点 新装版』
■ 『二十歳の原点序章 新装版』
高野悦子著 / カンゼン

自分が根底から揺さぶられる本です。

■ 『神谷美恵子日記』
神谷美恵子著 / 角川文庫

ハンセン病療養所で患者に献身した、精神科医である著者の日記です。自分自身を見つめ直すきっかけになると思います。

【周尾卓也】

■ 『生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉』
日野原重明著 / 幻冬舎

生活する勇気を与えてもらえる。

■ 『生涯最高の失敗』
田中耕一著 / 朝日新聞社

勉強する勇気を与えてもらえる。

【關谷暁子】

■ 『人間らしくヘンテコでいい』
鎌田實著 / 集英社

「ひとにうまれて、よかったな」そう思える一冊です。

【高橋純子】

■ 『禅ごよみ365日：毎日に感謝したくなる』
柊野俊明著 / 誠文堂新光社

日々感謝、色んな支えがあり、生かされている自分に気づく本です。

■ 『仕事がかどる禅習慣』
柊野俊明著 / マガジンハウス

だらけた自分を見直したくなる本。自分に喝を入れることができます。

■ 『あやうく一生懸命生きてきたところだった』
ハ・ワン著、岡崎暢子訳 / ダイヤモンド社

しんどいときに、がんばりすぎたときにこの本を読んで少し楽になってください。

【滝野豊】

■ 『救命センター カルテの向こう側』
浜辺祐一著 / 集英社

医療人を目指す学生は心に刺さるはず。医療制度が抱える問題も知ることができる。

■ 『大学生のためのメンタルヘルスガイド：悩む人、助けたい人、知りたい人へ』
松本俊彦著 / 大月書店

大学生になって新しくできた友達から対人関係、恋愛、性、薬物の相談を受けた時、きっと役立つ本です。

【油野友二】

■ 『人生は服、次第』
政近準子著 / 宝島社

ノンバーバルコミュニケーションとして理系・文系問わず学生・社会生活の一つのヒントがあります。一読の価値あり。

国際交流センター・留学生別科

【大久保蛍】

■ 『時事中国語の教科書 2021年度版』
三瀧正道他著 / 朝日出版社

難しい時事ニュースも簡単に解説してあるので、勉強しながら現代中国について知れる一冊です。

■ 『LOVE上海』
楊凱栄他著 / 朝日出版社

上海留学を身近に感じれる一冊です。

【茂野瑠美】

■ 『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』
西村義樹、野矢茂樹著 / 中央公論新社

対談形式で認知言語学を深く学べる一冊です。

■ 『三体』
劉慈欣著、大森望他訳 / 早川書房

中国人エリート科学者が活躍する長編SF小説。

【横田隆志】

■ 『ぼんやりの時間』
辰濃和男著 / 岩波新書

「忙しい」と感じたら、この本を読んで充実した「ぼんやりする時間」を過ごしてください。

【佐々木技好】

■ 『7つの習慣ティーンズ』
シヨン・コヴィー著、フランクリン・コヴィー・ジャパン編 / キングベアー出版

よりよい人生を歩く7つの習慣を学ぼう。

【佃志津】

■ 『テンセントー知られざる中国デジタル革命トップランナーの全貌』
呉曉波著 / プレジデント社

世界のネットビジネス、中国のビジネス全体を理解する上で大変参考になる書。

■ 『全国アホ・バカ分布考: はるかなる言葉の旅路』
松本修著 / 新潮文庫

言葉といっしょに時間と空間を旅しよう。

■ 『言語学バーリ・トゥード』
川添愛著 / 東京大学出版会

言語学の本でありながら、AIやプロレス、お笑いなどの身近な切り口から「言葉の面白さ」が分かる一冊。

高等教育推進センター

【杉森公一】

■ 『量子力学で生命の謎を解く』
ジム・アル＝カリーリ著、水谷淳訳 / SBクリエイティブ

コマドリの目は磁気を見ているー量子力学をめぐる生命の謎解き。深海誠も注目の一冊。

■ 『理系の子: 高校生科学オリンピックの青春』
ジュディ・ダットン著、横山啓明訳 / 文藝春秋

全てのこどもたちが、科学の芽を息吹かせる可能性を持っている。11人の高校生たちの発見とセレンディピティ(奇跡)の物語。

図書館

- 『人生に悩んだら「日本史」に聞こう 幸せの種は歴史の中にある』
白駒妃登美著 / 祥伝社

歴史上の人物の感動的なエピソードに触れることができます。

- 『日本のこころの教育』
境野勝悟著 / 致知出版社

日本人に生まれた事に誇りを持てる1冊です。

- 『日本、遥かなり エルトウールルの「奇跡」と邦人救出の「迷走」』
門田隆将著 / PHP研究所

イラン・イラク戦争でトルコが日本人を救ってくれた理由を知って欲しい。

- 『陸王』
池井戸潤著 / 集英社

損得を度外視した人と人との信頼関係の大切さが学べます。

- 『シューカツ！』
石田衣良著 / 文藝春秋

就活前に是非読んで欲しいと思います。

- 『永遠の0』
百田尚樹著 / 講談社

どの時代であろうと、家族や仲間を守るための愛や命の大切さを学べるので読んで欲しい。

- 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』
- 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら』
岩崎夏海著 / ダイヤモンド社

ドラッカーの「マネジメント」について、野球を通じて分かり易く書いてある。経済経営学部の学生の皆さんに読んでほしい。

- 『まちづくり都市金沢』
山出保著 / 岩波新書

金沢といえば伝統文化。その「金沢らしさ」を活かした町づくりを前金沢市長が紹介しています。観光を学ぶ学生の皆さんには是非読んでほしいと思います。

- 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』
藤尾秀昭編 / 致知出版社

著名人の仕事に対する姿勢は、そのまま人生の教訓になります。